

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービス CHERISH				公表日	2026年2月25日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		児童の利用状況に合わせて、1階では体を動かすスペース、2階では落ち着いて工作などをおこなえるスペースを確保しています。	利用状況に応じて、スペースの使い方を定期的に見直ししていく必要がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		心理職など専門職を含めた職員配置により、児童の特性に応じた支援体制を構築しています。	児童の利用人数や状況、支援内容の変化に応じて、配置バランスの検討を継続する。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		絵や写真など表記の仕方を工夫し、児童が見通しをもって過ごせる空間づくりをおこなっている。	児童の特性の変化に応じて、常に最新の環境調整をおこなっていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		児童の来所するまでに清掃・消毒を徹底し、活動内容に応じたレイアウト変更や装飾をおこなっている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		必要に応じて個別で過ごせるスペースを確保し、児童が安心して気持ちを落ち着けられる環境を整えている。	個別対応と集団活動の切り替えをより円滑におこなうために職員の意識共有を高める工夫が必要。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		日々のミーティングにより、職員が業務改善に関わる機会を確保している。	改善の成果や進歩を可視化し、職員間で共有する仕組みを強化したい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者評価を通じて寄せられた意見を業務改善に反映している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		ミーティングや個人間での意見交換を通じて、意見を収集し改善策に繋げている。	意見交換が一部の職員に偏らないように参加しやすい場づくりが求められる。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		外部の視点を具体的に業務改善へどう活かすかの整理が必要。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修に参加することで職員の専門性の向上を図っている。	研修内容を実践にどう落とし込むかの振り返りを強化したい。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムを整備・公表し、支援内容の明確化を図っている。	実践内容との整合性を定期的に確認し、必要に応じて見直す。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		独自のアセスメントを用い、客観的な視点で個別支援計画を作成している。	ニーズの変化に応じた計画修正のタイミングを整理したい。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		職員全体でのミーティングを通じ、共通理解を図っている。	議論の質を高め、より具体的な支援方針に繋げたい。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画内容を職員間で共有し、計画に沿った支援を実施している。	実施状況のモニタリングで、より児童に寄り添った支援をおこなう必要がある。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		フォーマル・インフォーマル双方のアセスメントを活用している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインに基づき、本人支援・家族支援などを計画に反映している。	支援項目が多岐にわたるため、支援項目の優先順位の整理が必要。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員で活動プログラムを立案し、柔軟に対応している。	立案のねらいや児童への適正を職員間で正確に伝えよう工夫が求められる。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節行事や児童の意見を取り入れ、活動の固定化を防いでいる。	意見をより計画に反映する仕組みづくりが必要。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別活動と集団活動を状況に応じて組み合わせている。	活動のバランスの調整を継続的におこなう。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援前のミーティングで役割分担を明確にしている。	支援内容の変化の情報共有をより迅速にし、臨機応変に対応をおこなっていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援後の振り返りをおこない、気付きを共有している。	振り返りを次の支援改善につなげる視点を強化する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		活動記録表を通じて支援の検証をおこなっている。	要点を整理し、活用しやすい記録にする必要がある。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		計画的にモニタリングを実施している。	ヒアリング方法を工夫し、より適切な見直しをしていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		児童の特性に配慮し、バランスよく組み合わせたプログラムを計画している。	活動間の切り替えを支援する工夫が必要。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		体を動かす活動や落ち着いて出来る工作活動などの活動を児童自身がどれに参加するかを選ぶ場を設けている。	今後も職員全員が“児童の声を聴き、それを支援に活かす”という共通認識を持つ仕組みを強化していく。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		日頃の状況を把握している職員が参加し、状況をふまえた共有をおこなっている。	会議内容が事業所内の支援に反映されるよう、共有方法や振り返りの仕組みを整理したい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育などの関係機関との連携を意識し、必要に応じて情報を共有するように努めている。	児童の状況に応じて、必要な支援が受けられるよう関係機関との連携を増やす方向で検討していく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		送迎時等で学校と児童の情報共有をおこない、当日の支援に役立っている。	情報のタイムラグが生じる場合があり得るため、連絡ルートの明確化と共有の迅速化を図りたい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		就学前の関係機関などから得た情報を必要に応じて支援に活用し、移行後の不安軽減に繋げている。	より引継ぎ内容を相談員や家族との面談で要点を整理し、支援計画に反映する手順を整えたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		現時点での移行支援の対象児はいないが将来の移行を見据え、情報提供の準備や視線の整理を進めている。	移行支援に必要な情報を伝わりやすいようにまとめ、いつでも提供できるようにする。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			今後、検討していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		公園での活動を通じて自然な形で地域の子どもの関わりが生まれる機会を大切にしている。	曜日や参加の児童が限定的になってしまうため、参加できない児童がどのようにしたら参加できるかを検討していきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		協議会等の必要性を認識し、情報収集や参加の検討をおこなっている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時や連絡帳などを通じて日々の様子や変化を共有し、保護者とのコミュニケーションを継続している。	保護者が相談しやすい導線を増やし、情報交換の機会をさらに確保したい。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		情報提供の発信を心がけている。	家族が参加出来る機会を設けていきたい。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		見学契約時に運営規程、支援内容、利用者負担などについて丁寧に説明し、理解の確認をおこなっている。	見直しを行いながら更に理解のしやすい説明を行う。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		本人の気持ちや保護者の意向を日常的に確認し、意思の尊重と最善の利益の観点を支援計画に反映するよう努めている。	意見の引き出しやすい質問の仕方や記録方法を整え、具体的な意向を把握しやすくしたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		計画を示しながら支援内容を説明し、同意を得たうえで支援計画を進めている。	保護者がイメージしやすいよう、支援例や活動例を用いた説明を増やしたい。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎時や連絡帳、面談などで相談に応じ、必要の際には助言や支援に繋げている。	相談対応の質を均一化するため、事例共有や必要に応じてミーティングをおこない、職員の対応量を高めたい。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		保護者やきょうだいも含めた交流の機会を設けたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情解決に関する規定を整備し、規定に基づいた対応をおこなっている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		定期的な通信やHPやSNS等を通して情報発信をおこなっている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		管理規定に基づき、個人情報の保護と適切な取り扱いを徹底している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		家庭ごとのコミュニケーション方法に配慮し、伝え方や手段を工夫して意思疎通を図っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		頻度は低いが地域の方も参加して頂ける行事を行った。	周知してもらえよう工夫を行い、地域に根づく事業運営を行っていきます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		事故防止・緊急時・防犯・感染症などの各種マニュアルを整備し、状況に応じて見直しをおこなっている。	周知が形式的にならないよう、要点をまとめた資料や説明する機会の工夫が必要。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定し、災害を想定した訓練や見直しを継続している。	職員が迷わず動けるよう、訓練の質（シナリオ・役割・振り返り）を高めたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		服薬やてんかん発作などの健康状態を確認し、必要な対応が出来るよう職員間で共有している。	保護者が伝えやすい仕組みを整え、情報更新を確実にしたい。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食物アレルギーなどについて保護者からの情報を基に把握し、必要に応じて医師の指示に基づく対応をおこなっている。	情報更新の漏れを防ぐために、定期確認の手順を明確化したい。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画に基づき研修や対応手順の確認をおこなって、事故・トラブル時の対応力向上に取り組んでいる。	日常点検の実施状況を可視化し、潜在リスクの早期発見に繋げたい。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画の要点を簡潔にまとめた資料を作成し、配布している。	安全計画に基づく取り組み内容を定期的に見直し、その都度保護者に情報を共有する場を設ける。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットを共有し、事例ごとの再発防止策を職員間で検討している。	対策効果の検証（実行→確認→修正）を分かりやすくできるように評価の仕組みを整えたい。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		外部講師などによる研修を通じて、虐待防止に関する理解と意識の向上を図っている。	研修後の振り返りや理解度確認をおこない、現場実践に繋げる形へ改善したい。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束をおこなわない方針を前提とし、環境調整や行動支援等代替手段を検討する体制を整えている。	リスクが高まる場面を想定した予防的な支援を継続的に点検し、必要時の説明・合意手順も含めて整備を進めたい。	